たけうまファンド

設定日	：2011年11月	償還日	：死ぬまで	決算日	：原則、毎月末
収益分配	：ありません	基準価額	：算出対象外	純資産総額	：非公開

※レポートのグラフ、数値等は過去のものであり将来の運用成果等を約束するものではありません。
※レポートでは公開できない数値等が多数存在するため、目盛り等一部の表示を省略させていただいております。

運用実績

※運用開始時の資産を100としたグラフとなっています。
※グラフの歯抜け期間は当ファンド運用担当者のメンタルが死んでいた期間につき運用実績の記録ありません。

＜資産構成比率＞

日本株式	68.6%
海外株式	22.7%
現金（円・$）	8.7%

※比率は対純資産総額比です。

＜純資産総額騰落の要因分析＞

日本株式	+5.6%
海外株式	+0.1%
現金（円・$）	-2.0%

※上記の要因分析は当月中の売買を考慮せず（できない）、前月末と当月末の時価総額の差を算出してます。

※上記の要因分析は、実際の純資産総額の変動を正確に説明するものではありません。各市場と当ファンドの運用状況の傾向を知るための参考地としてご覧ください。

＜分配金実績＞

設定来
0円

※永遠のゼロ。成長ないので分配なし。

＜純資産総額の騰落率＞

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
3.8%	2.1%	0.8%	16.9%	11.4%	1607.74%

※証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、今後変わる可能性があります。

たけうまファンド　日本株式／海外株式

＜資産構成比率＞

資産	比率
株式	91.3%
現金	8.7%

＜国・地域別組入比率＞

国・地域名	比率
日本	68.6%
アメリカ	22.7%

＜業種別組入比率＞

業種	比率
一般消費財・サービス	34.07%
資本財・サービス	33.37%
情報技術	8.83%
金融	6.13%

＜組入上位10銘柄＞

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	比率
1	ウルトラファブリックスHD 4235	日本円	日本	一般消費財・サービス	15.82%
2	シルバーライフ 9262	日本円	日本	一般消費財・サービス	10.47%
3	シンメンテHD 6086	日本円	日本	資本財・サービス	8.84%
4	ServiceNow, Inc. NOW	米ドル	アメリカ	情報技術	8.83%
5	日揮 1963	日本円	日本	資本財・サービス	8.02%
6	Tapestry, Inc. TPR	米ドル	アメリカ	一般消費財・サービス	7.79%
7	オカダアイヨン 6294	日本円	日本	一般消費財・サービス	7.09%
8	MSCI Inc. MSCI	米ドル	アメリカ	金融	6.13%
9	オプテックス MSCI6914	日本円	日本	資本財・サービス	6.11%
10	ベネフィット・ワン 2412	日本円	日本	資本財・サービス	3.32%

＜規模別構成比率＞

時価総額	比率
1兆円以上	24.96%
5000億～1兆円未満	1.57%
1000億～5000億円未満	14.79%
1,000億円未満	58.68%

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。

運　用　実　績

2月期の当ファンドは一桁台前半の資産成長となり、1月に続いて堅調な流れを継続することができました。今月は先月にもまして相場を見ていない状態が続いていましたが、見ていなくても少しずつパフォーマンスが出る相場だったようです。フルポジで放置している当ファンドにとってありがたい限りです。

集計していて印象的だったことは、今月は優待口座がほぼ壊滅的だったということです。日本製鉄の相場が継続していることやテレビ局にも触手が伸びるようなことがあったりとバリュー株相場続いていたんだと思っていますが、そんな相場展開の中でノーランディングの期待感含めシクリカル系に資金が流れて、業績の割に先行きの期待感多めで膨らんできたサービス小売流通外食は弱めだったということかなと考えています。あとは2月末の権利落ちもありそうです。バリューなシクリカル系だと保有株のオカダアイヨンの月末の上昇には驚きました。

売買では信用取引で若干の短期売買をしたのと、信用ポジションで元気寿司を購入しました。先月の月次を見る限りスシローぺろぺろ事件でスシローからの流出客を一番受け止めているのに株価が冴えないままだったので2月分の月次発表を意識したスイングトレードです。このレポートを執筆している4日現在、週末公表の月次売上では想定通り上場大手の中では顧客流入は続いている様子が確認できたので一安心しています。加えて、サービス全般2月はアンダーパフォームしていたこと、3月から中国からの直行便での入国者に対する水際措置が緩和されるということもありいい意味で様子を見ながら柔軟に対応していくことになりそうです。

ファンドの運用についての内容はこれで以上です。これだけだとあまりに紙面が寂しいことになってしまうので、自分が見聞きした状況からこのところ感じているインフレの浸透具合いについてメモしておこうと思います。

過去を振り狩ると2013年4月の黒田バズーカ以来我々はインフレくるくる詐欺にやられてきたわけですが、今回ばかりはこのままインフレ浸透しだすのではないかと思わざるを得ない状況になっていると感じます。This Time Is Differentです。そう感じる一番大きい要因は「インフレに国民が慣れてきたというかもうこれは仕方ないんだと諦めて受け入れる」動きが広がってきたことです。今回の3月のまた値上げのように都度それなりにニュースになりますが、もう差最近は「あーはいはい、また値上げね。」という感覚で注目度は下がっていますね。何十年と同じ価格を守ってきた商品サービスにしても、実はこれまでも値上げしないように頑張ってきていたんですがもう限界ですという主張が好意的に我々消費者ももう受け入れるしかないですねという論調です。この流れも海外含めればもう一年以上は続いていますし、あまりにも猫も杓子も値上げなので追いきれなくなって関心が薄くなっているというのもありそうです。

コロナ禍による物流目詰まりと半導体不足とさらに円安と資源食料価格高騰が加わったことで始まって、国民みんなが物価上昇の圧力というか機運を肌で感じているところに、コロナリオープンの追い風で人手不足が直撃してどうやら一過性で終わるどころかまだまだ続きそうです。実際その影響で例えば報道では大手企業は春闘労使交渉を待たずベアを発表したり労組の要求を丸呑みしている状況が報じられたり、いつになっても新車の納車期限がわからないままだったり、セルフレジやタッチパネルオーダーの浸透や配膳ロボが当たり前になったり、飲食店やホテルなどでは時短や間引き営業が当たり前になっています。どこか遠い世界の話ではなく身近な現象で変化が本当に迫ってきてることから「これは仕方ないんだと諦めて受け入れ」ているんじゃないでしょうか。このような状況になってきている中で恩恵がわかりにくくインフレのピークを遅らせる物価高騰対策は明らかに悪手ですね。本筋ではないですが。

先日優待を使うために入ったガストは平日の夜でも少し待たされました。夜にメインメニューとライスセット、ドリンクバーを注文するとあっという間に1500円くらいになります。一昔前では考えられなかった高さです。でも明らかに学生らしき連れ合いや団体で店内はいっぱいでした。高いといっても利用を控えているのは感じませんでした。自分としてはガストに1500円出すならもう500円足して2000円でロイヤルホストのほうが満足感があるからそっちがいいなという感想でした。もちろん質や満足感抜きにして毎日の支出として出せる金額というのは決まっているものなのでそう単純な話ではないのはわかっていますが、今まで安く安く頑張っていたところから限界が来て値上げがスタートしているなら利用客の消費性向は変わっていくんでしょう。変わっていくはずです。

消費者の思考がどう変わっていくのかはとても今後重要になってきそうです。どこで何を買ってどんなサービスを利用して、なにを買わなくなってなにを利用しなくなるのか。

自分が感じたのは缶コーヒーの高さです。仕事中にコーヒーが飲みたくなって自販機に寄ってみたら軒並み130円以上でした。130円は今まではちょっとリッチな蓋つきのボトルにのみ許された価格だったのに…と思いながら購入をやめました。だったら110円のコンビニコーヒーを飲みます。という自分の感覚だとストレートにサントリーBFあたりは一時期の米コカ・コーラのようにドラックストアなどで安売りの大容量パックしか売れなくなったらかなり厳しい気がします。

紙幅の関係もあるので、あと気になるのはこちらもストレートに求人ですかね。岸田首相は扶養と年金の壁をどうにかすると言っていますが、現状日本は非正規を賃上げすればするほど働ける時間が減って人手は足りなくなるで求人を出さないといけないし、壁がない独身非正規はどんどん賃金がいいところを探すでしょう。

来月も株に割ける時間は増えることはなさそうですが、相場概況は見れなくてもニュースや日々の体感を意識的に銘柄に落とし込んで監視していく作業くらいは継続していくようにしたいと考えています。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。